

2020年度

環境経営レポート

(対象期間 2020年4月～2021年3月)



発行 2021年5月15日

入間川ゴム株式会社

1. 事業所の概要及び登録範囲

事業所

事業所	入間川ゴム株式会社・本社工場
代表者氏名	代表取締役社長 清水 佑樹
環境管理責任者	池田 隆直
事業内容	工業用ゴム製品製造・販売
主要製品生産重量	3,000 トン
従業員数	117 名
所在地	埼玉県狭山市入間川 1-15-40
電話番号	04-2953-3131
床面積	9,621 m ²

事業所

事業所	大阪支店
所在地	大阪府東大阪市楠根 1-8-3
電話番号	06-6746-2551
従業員数	8 名
床面積	222 m ²

事業所

事業所	名古屋営業所
所在地	愛知県名古屋市中区金山 3-12-13
電話番号	052-331-6256
従業員数	3 名
床面積	165 m ²

2. 環境経営方針

入間川ゴム株式会社 環境経営方針

<環境理念>

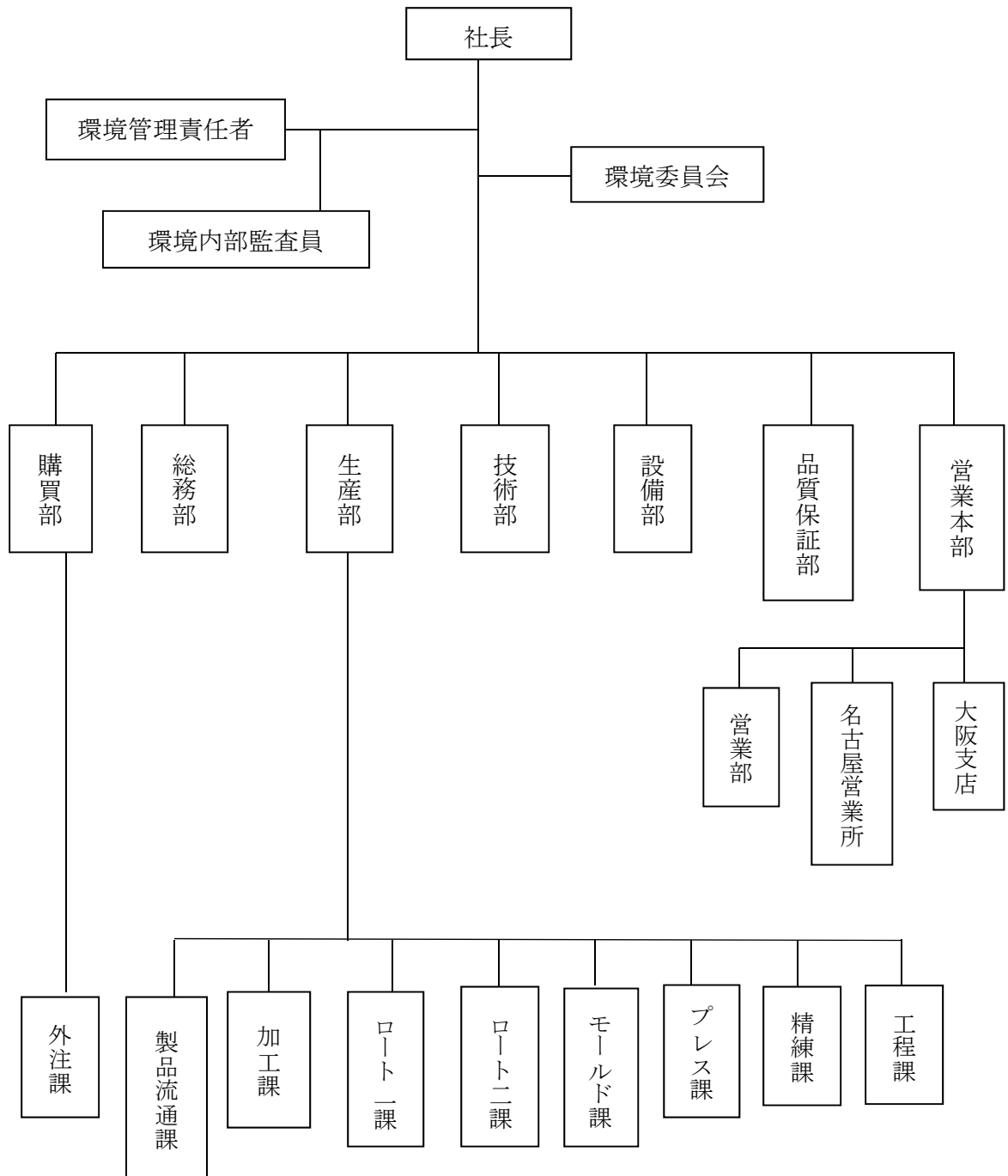
入間川ゴム株式会社は、環境負荷低減に向けた活動により、人と環境にやさしい事業活動を目指す。

<環境基本方針>

1. 事業活動を通じて省エネルギー、省資源の推進を図る。
2. 事業活動によって生じる廃棄物の削減及びリサイクルに取り組み、環境や資源に配慮した製品づくりを心がける。
3. 環境関連の法規制を遵守する。
4. グリーン購入に努める。
5. 化学物質排出量削減に努める。
6. 環境に対する方針を、全社員に周知する。
7. 環境目標を設定し、それに取り組み、定期的に見直しをすることにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。

2019年4月1日
入間川ゴム株式会社
代表取締役社長
清水佑樹

3. 実施体制



4. 環境経営目標と実績

1) 2020 年度本社工場環境経営目標と中期目標

2018 年度の実績を基に基準値として 2019～2021 年度の 3 ヶ年計画を策定した。

2020、2021 年度の廃棄物の目標は 2020 年 3 月修正した。

本社工場

項目	目標値	基準値	2019 年度 目標値	2020 年度 目標値	2021 年度 目標値
CO2 排出削減	生産重量当り CO2 排出量削減 <u>21 年度は 18 年度比 97%以下</u> CO2/生産重量	0.600 (トン/トン)	0.594 以下	0.588 以下	0.582 以下
廃棄物削減	生産当り廃棄物最終処分量 <u>21 年度は 18 年度比 91%以下</u> 廃棄物最終処分量/生産重量	0.0454 (トン/トン)	0.0440 以下	0.0450 以下 (修正)	0.0437 以下 (修正)
水使用量の削減	生産重量当り地下水使用量削減 <u>21 年度は 18 年度比 97%以下</u> 地下水使用量/生産重量	1.45 (m3/トン)	1.44 以下	1.42 以下	1.41 以下

CO2 排出係数 : 電力 0.462(CO2-kg/kWh)[東京電力エナジーパートナー2017 年度 CO2 排出原単位調整後] 都市ガス 2.16(CO2-kg/m3)

項目	目標	基準値	2019 年度 目標値	2020 年度 目標値	2021 年度 目標値
グリーン購入	環境適合商品の購入 (品目数)	36	37	38	39
	環境負荷の小さい材料 の購入件数	5	5	5	5
化学物質削減	PRTR 物質の排出削減 主にトルエン (kg)	1,305	1,266 以下	1,227 以下	1,188 以下
製品に関する項目	不適合率の削減* (生産部署合計 %)	4.2	4.2	4.2	4.1

*不適合率：生産各部署の不良率、歩留まりを集計して表した数値。

2) 2020 年度の環境経営計画と実施内容

項目	実施計画	実施確認
CO2 削減 電力 ガス	設備更新(検討事項) ・貫流ボイラーの更新(蒸気用)運転の効率化 ・ファン・ポンプ等の効率化、インバーターによる省エネ化 ・省エネパトロールによる指摘改善	・1 基更新→ボイラーの熱効率 3 %アップ(昨年に続き行った)、運転の見直し調整した ・油圧カッターのポンプモーターが常時回転しているので、インバーターを使用し不使用時低速回転にした ・節電事項、蒸気もれエアーもれ、配管保温等を指摘し、補修した。
廃棄物	廃棄ゴムの削減 ・未加硫ゴム、スコーチの廃棄ゴムの削減施策を実施する。 ・適正な圧延等各部署で実施する	・ゴム製造工程中で、夏場の中間品の不良対策によりこの分の廃棄するゴムは前年より減った。 ・前年より改善されているが、技術的な内容であり、継続的な改善が必要である。
水使用量	・異常時の早期発見と対策を行う。	・今年度地下水は特に使用量の異常、また不明な水はなく、生産・設備稼働に準じた使用量となっている。
グリーン購入	・環境対応商品の優先購入、詰め替え可能な商品を購入 ・資材購入… 近くの工場、低エネルギーとなる大量生産・新設備の製品を購入	・今年度も目標品種を増やし、環境商品を多く購入した。 ・目標 5 件、4 件実施。
化学物質	トルエンの使用量の削減 ・機械の洗浄を再検討 ・付近の濃度を測定する。	・機械の洗浄で代替品は使用量の削減で有効であった。濃度の測定は場所・位置で差が大きいため管理できず改善の効果は小さかった。

3) 過去 3 年間の環境負荷の実績

*印は環境経営目標

項目	単位	2018 年度	2019 年度	2020 年度
CO ₂ 排出量	CO ₂ トン	2,050	2,041	1,868
エネルギー投入量 [電力]	G J	28,016	27,917	25,827
エネルギー投入量 [化石燃料]	G J	14,475	14,425	12,953
*生産重量当り CO ₂ 排出量	CO ₂ トン/生産重量トン	0.607 (未達成)	0.591 (達成)	0.621 (未達成)
*生産重量当り廃棄物処分量	廃棄物トン/製品トン	0.0440 (未達成)	0.0496 (未達成)	0.0446 (達成)
廃棄物再利用率	%	55	49	51
地下水使用量	m ³	4,095	3,730	4,255
上水使用量	m ³	1,804	2,030	1,380
*生産重量当り地下水使用量	地下水 m ³ /製品トン	1.20 (未達成)	1.09 (達成)	1.44 (未達成)
製品生産重量	トン	3,400	3,400	3,000

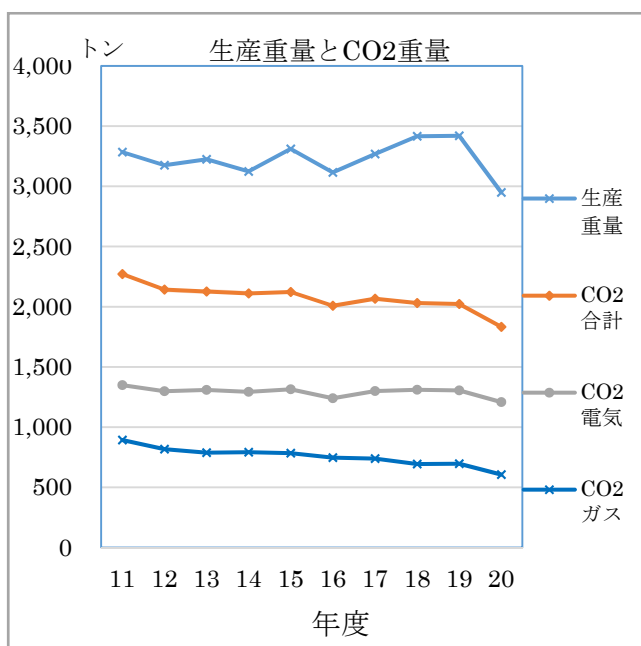
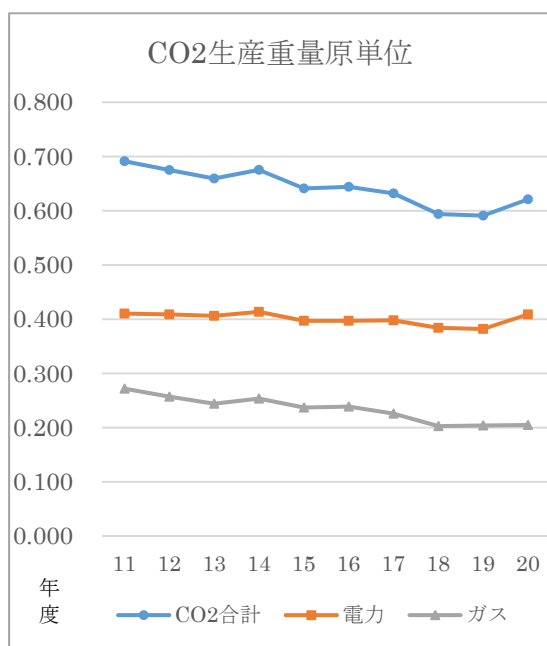
電力の CO₂ 排出係数は、本社工場 0.462[東京電力エナジーパートナー(株)] 大阪支店 0.318[関西電力(株)] 名古屋営業所 0.426[中部電力ミライズ(株)] (CO₂kg/kWh) で換算、CO₂排出量、エネルギー投入量、上水使用量は全社(3 事業所の合計)、その他は本社工場のデータ

項目	内容	単位	2018 年度	2019 年度	2020 年度
*グリーン購入	環境適合商品の購入	品目	49 (達成)	56 (達成)	54 (達成)
	環境負荷の小さい材料の購入	件	5 (達成)	5 (達成)	4 (未達成)
*化学物質削減	排出量の削減	kg	1,360 (未達成)	1,160 (達成)	960 (達成)
*製品に関する項目	不適合率の削減	%	4.49 (未達成)	4.45 (未達成)	4.01 (達成)

4) 2020 年度の取組結果とその評価

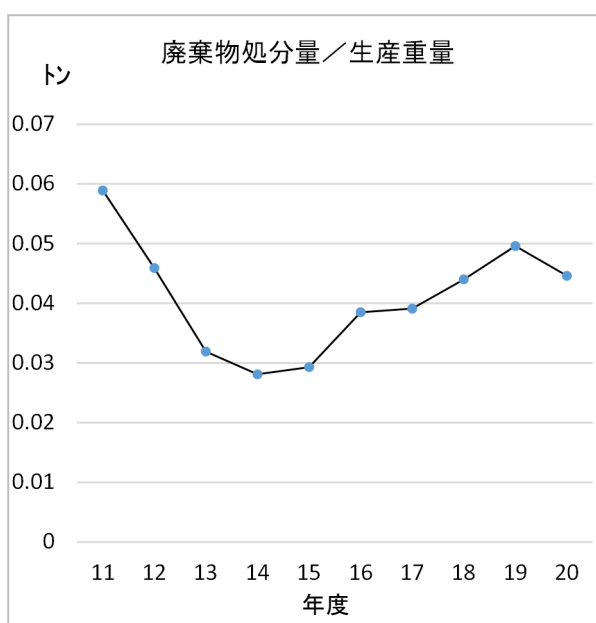
① CO₂

2020 年度はコロナ禍で生産量が減って CO₂ は生産重量原単位で多くなり、目標未達成となった。ガスは生産重量近く減ったが、電力は生産重量が減った程下がらず電力分の CO₂ が生産重量原単位で多くなりました。ゴムの混合、押出の電力は生産量に比例するが、付帯設備全般で生産量ほど下がらず、経年的にも今まで生産重量当たりで低減してきましたが、2020 年度は電力分の CO₂ が生産重量当たりで多くなっております。



② 廃棄物削減

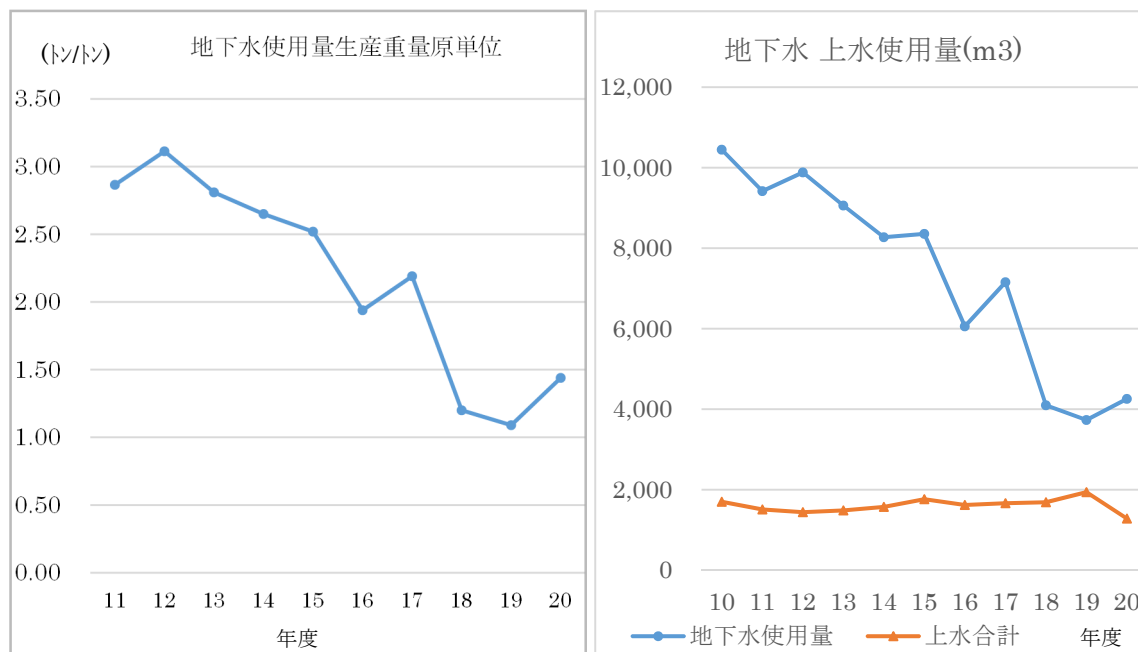
廃棄物削減の目標は、最終処分となる廃プラ／生産重量の原単位で見えており、この中で多くは廃棄ゴムであり、最終処分となる産廃を削減することを行っております。汎用製品は廃棄ゴムとなる量は多くないですが、オーダー製品は廃棄ゴムとなる量が多く、最近は品質を重視した製造により未加硫ゴムの廃棄される量が多なっているため増えています。2020 年度はオーダー製品が減ったことと、対策効果も少し出ているため減りましたが、まだ削減はできると思われます。



③ 水使用量の削減

水使用量の削減は、使用量の多い地下水について環境経営目標として生産重量原単位を目標に取り組んできました。主に機械の間接冷却水として使用しており循環水の使用と設備更新などで減ってきました。2018年度からほぼ安定しており、今年度はプレス機2台の冷却水の使用で増えております。

当社の主要製品の設備は循環水を使用して生産量に依存しなくなっており、またメ



ーターがなく使用量を把握できないところの設備もあるので、特に異常な使用量がな
いか監視しております。

上水は 2020 年度コロナ禍で稼働が減ったので、その分使用量も減っています。

④ グリーン購入

グリーン商品の購入は事務用品が主であり、購入品種を増やすことを目標にして達
成しており、また詰替え可能な商品の購入を進めています。

実際の生産に関わることで、「環境負荷の小さい資材の購入」の件数を目標にし
ており、新しい案件が少なくなって目標件数5件に対し4件実施し、1件未達成であり
ました。

⑤ 化学物質排出量の削減

当社はP R T R物質を使用しておりますが、環境中に放出するものは溶剤が多いので、
トルエンなどについて使用量の低減を目標にしております。使用量が特に多いのは大型
の機械を洗浄する時で、直接製品が通るところは洗剤の最終的な使用が難しいので、な
るべく代替溶剤の使用を増やしてトルエンの使用を増やし、なるべく洗浄の仕上げで使

用しております。2020 年度は生産量が減った分より多く減っております。

⑥ 自らが生産・販売提供する製品サービスに関する取組

不適合率の低減に全社で取組んでおり対策改善を実施しており、2018 年度から 4.2%の目標とし 2020 年度に達成しました。

5. 次年度の取組内容

1) 2021 年度の目標及び中期目標

2021 年度は、2019～2021 年度中期目標の最後の年で、廃棄物は 2020 年度から修正しています。CO₂、廃棄物、地下水は生産重量原単位で、これらの評価は主力製品の生産重量に影響されます。2021 年度の実績計画は従前の計画より少し小さくなるが、この範囲では 3 カ年目標通りとします。

2) 2021 年度の活動計画

CO ₂ 削減	・設備更新し効率化 チラー1 台更新 蒸気用ボイラーへの給水系統更新 キュービクル更新 ・省エネパトロールによる指摘改善 節電・蒸気漏れ対策・蒸気管の保温・放置されている無駄を改善する
産廃削減	・廃棄物の削減を主に生産各部署で行う 残りゴム、リターンゴムの活用、圧延量、頻度の調整等適正に行う 産廃が多い時の内容を確認し対策を検討実施する
水使用量削減	- 循環水の利用に切り替える。(プレス機 2 か所) - ボイラーへの給水系統を更新 - 異常時の早期発見と対策を行う
グリーン購入	- 環境負荷の小さい材料の購入を推進 - グリーン商品の購入
化学物質	トルエン使用による機械の洗浄を再検討 [代替洗浄剤を使用、トルエンは洗浄の仕上げで主に使用]
製品に関する項目	不良原因調査・対策、是正処置への展開、再発防止策の立案・実施

3) 2021 年度の取組内容

① CO2 削減

設備としては、少し大きなチラーの更新を行いたく、実際の熱量に対しての適正な出力の装置で効果が期待できる。

省エネパトロールについては改善事項、見直し点が出されるので継続して実施していきます。

② 廃棄物削減

2020 年度も廃棄ゴムが多かったこと、一度圧延したゴムの再使用が難しくなっているため、適正な圧延、残りのゴムの利用を生産各部署で行い、未加硫ゴムの再利用を検討します。

③ 水使用量の削減

地下水について 2021 年度は、プレス機 2 台に送る冷却水を循環水にするとほぼ使用量が見えてくると考えられます。ボイラーへの給水系統を更新し、その関連設備への給水系統を確認します。また使用量のわからない箇所があるのでメーターの設置を検討します。

④ グリーン購入

2021 年度もグリーン商品の購入の品種を増やすこととしております。

実際の生産に関わる項目も継続して「環境負荷の小さい材料の購入件数 1 件」とし、環境への負荷の小さい材料を購入することを目標にします。

⑤ 化学物質排出量削減

洗浄用としての溶剤の使用量は代替品の使い方を再度検討し、トルエンの使用は洗浄の最後の仕上げで使用するなどトルエンの使用量を減らしていきます。

⑥ 自らが生産・販売提供する製品サービスに関する取組

品質目標となっている不適合率の削減について 2020 年度は目標達成し、2021 年度は新たに高い目標で各部署に展開し、全社で取組めます。

6. 環境関連法規の順守状況

環境関連法規制については、順守すべき法令の取りまとめをし、工場立地・工業用水・排水・大気・化学物質・騒音・振動・廃棄物・フロン・公害防止・消防等の法令のチェック項目を作成し順守する仕組みを機能させており、重要な法規に関しては違反がないことを確認しております。

なお関係当局からの違反の指摘、住民からの訴訟等について過去 3 年間ありませんでした。

・ 環境汚染の防止

測定例として次の項目があり、測定値は基準値以内でした。

公共用水域への排出水の水質汚染物質の測定（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

水質汚濁物質	測定濃度平均	狭山市指導基準値
BOD (mg/L)	2 (2020 年度)	25

煤煙発生施設に係るボイラーからの窒素酸化物測定値

2020 年 10 月 8 日 2 基測定

煤煙発生施設 (仮 No)	1	2	規制値
窒素酸化物濃度 (ppm)	39	34	150
ばいじん濃度 (g/m ³ N)	< 0.001	< 0.001	0.10

7. 代表者による全体の評価と見直し

社長、各部署長による代表者による全体の評価と見直し会議を 2021 年 3 月 3 日に行い、下記の項目について実施するよう指示がありました。

環境目標達成状況、環境活動計画、取組実施状況

- ① CO2 削減 … 継続
- ② 廃棄物削減 … 継続
- ③ 水使用量の削減 … 継続
- ④ グリーン購入 … 継続
- ⑤ 化学物質排出量削減… 継続
- ⑥ 不適合率の削減… 継続
- ⑦ その他

- ・実施体制 … 継続

- ・環境経営方針 2019 年 4 月 1 日理念体系を改訂し、次年度も継続する。

- ・環境関連法規 環境関連法規取りまとめ一覧表を再確認

環境経営システムは継続的に改善させ、全員で目標達成を目指し、地域社会、取引先からも信頼されるよう環境活動に取組めます。